

川 越

No. 941

平成10年8月25日



わくわく散歩道シリーズ155（関連記事は2ページ）

わたしたちのまち 平成10年8月1日現在（在住外国人を含む）

人口 325,288人 前月比 +180人 ■男 164,249人 ■女 161,039人

●出生 300人 ●死亡 144人 ●転入等 1,283人 ●転出等 1,259人

世帯数 116,225世帯 前月比 +134世帯

川越市民憲章（抜粋）

- 1 郷土の伝統をたいせつにし、平和で文化の香りたかいまちにします。
- 1 自然を愛し、清潔な環境を保ち、美しいうるおいのあるまちにします。
- 1 きまりを守り、みんなで助けあう明るいまちにします。
- 1 働くことに生きがいと喜びを感じ、健康でしあわせなまちにします。
- 1 教養をふかめ、心ゆたかな市民として、活力にみちたまちにします。



スマイルシティ・川越

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

■省エネ（節電）・新エネルギー・自治体サミット
■川越市緑の基本計画を策定
■お知らせパック
■相談
■けんこう

*25日発行の広報川越は、翌月の行事等を中心にお知らせしています。
●「すこやかかわごえ」が折り込まれています。

26 23 18 12 4

野焼き等防止 クリーン作戦

展開中

8月1日～来年1月31日



現在、大きな社会問題となっているダイオキシン。その一要因ともいわれているごみの不法投棄や産業廃棄物の野焼きなどの廃棄物を巡る不法処理行為。これらを防止し、県民の生活環境の改善を図るため、埼玉県警察、埼玉県、川越市をはじめとする県西部地域19市町が連携して「埼玉県西部地域生活環境対策推進本部」を県警に設置し、今月から来年1月末まで「彩の国 野焼き等防止クリーン作戦」を展開中です。

これにより、継続的・集中的に監視活動や指導取締り活動を強力に推進していきます。

*19市町…川越・所沢・飯能・東松山・狭山・入間・朝霞・志木・和光・新座・富士見・上福岡・坂戸・鶴ヶ島・日高の15市と大井・三芳・川島・吉見の4町。

問い合わせ…環境保全課大気対策係内線2613

川越市役所24-8811

9月

September

- | | | | | | |
|------|--|---------------------------|-------------------|--------------------|------------|
| 1・火 | 二百十日 | 防災の日 | 市立学校始業式 | お焚き上げ（新宿町1丁目・浅間神社） | 小江戸七福神巡りの日 |
| 2・水 | | | | | |
| 3・木 | | | | | |
| 4・金 | | | | | |
| 5・土 | | | | | |
| 6・日 | 休日当番医 =落合産婦人科医院（産婦）清水町2-24☎44-6655 | | | | |
| 7・月 | | | | | |
| 8・火 | 白露 | 呑龍デー | | | |
| 9・水 | 救急の日 | 救急医療週間（～15） | | | |
| 10・木 | 広報川越発行日 | 全国下水道促進デー | | | |
| 11・金 | 二百二十日 | | | | |
| 12・土 | 市立学校休業土曜日 | 宇宙の日 | | | |
| 13・日 | 夢通り朝市 | | | | |
| | 休日当番医 =霞ヶ関眼科クリニック（眼）霞ヶ関東2丁目11-13☎32-2119 | | | | |
| 14・月 | | | | | |
| 15・火 | 敬老の日 | 老人保健福祉週間（～21） | ほろ祭（古谷本郷・古尾谷八幡神社） | | |
| | 休日当番医 =大東外科医院（胃腸・外・肛）南大塚29-1☎43-3345 | | | | |
| 16・水 | | | | | |
| 17・木 | | | | | |
| 18・金 | | | | | |
| 19・土 | | | | | |
| 20・日 | 動物愛護週間（～26） | | | | |
| | 休日当番医 =熊谷クリニック（内・皮・泌・性・放）旭町2丁目8-3☎41-6677 | | | | |
| 21・月 | 秋の全国交通安全運動（～30） | | | | |
| 22・火 | | | | | |
| 23・水 | 秋分の日 | | | | |
| | 休日当番医 =佐久間整形外科医院（整外・理）新宿町3丁目6-14☎43-2666 | | | | |
| 24・木 | 結核予防週間（～30） | 環境衛生週間（～10/1） | | | |
| 25・金 | 広報川越発行日 | | | | |
| 26・土 | 市立学校休業土曜日 | | | | |
| 27・日 | 伊佐沼青空市 | 第12回川越市健康まつり（市民会館・やまとき会館） | | | |
| | 休日当番医 =佐藤医院（皮・内・小）六軒町2丁目14-2☎22-1178 | | | | |
| 28・月 | 成田山のみの市 | | | | |
| 29・火 | | | | | |
| 30・水 | | | | | |
- 主な月間 障害者雇用促進月間 健康増進普及月間 ガン征圧月間
■納期のお知らせ 国民健康保険税第2期

*休日当番医の受付時間=午前9時～午後5時



高階南公民館前を南へ。坂を下り信号を左折すると、東上線のガードが見えます。ガードをくぐり100メートルほど進むと「おすわさまのなすとりかえ」(川越の伝説)で知られる諏訪神社が左側にあります。夏の病から身を守るために行われるようになった「なすとりかえ」。その風習は、現在も受け継がれています。境内の木々は、日ざしを遮り、子どもたちのよい遊び場になっています。こども8月27日の夏まつりに「なすとりかえ」が行われます。



シリーズ155
ふじま
〔藤間〕

節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミット

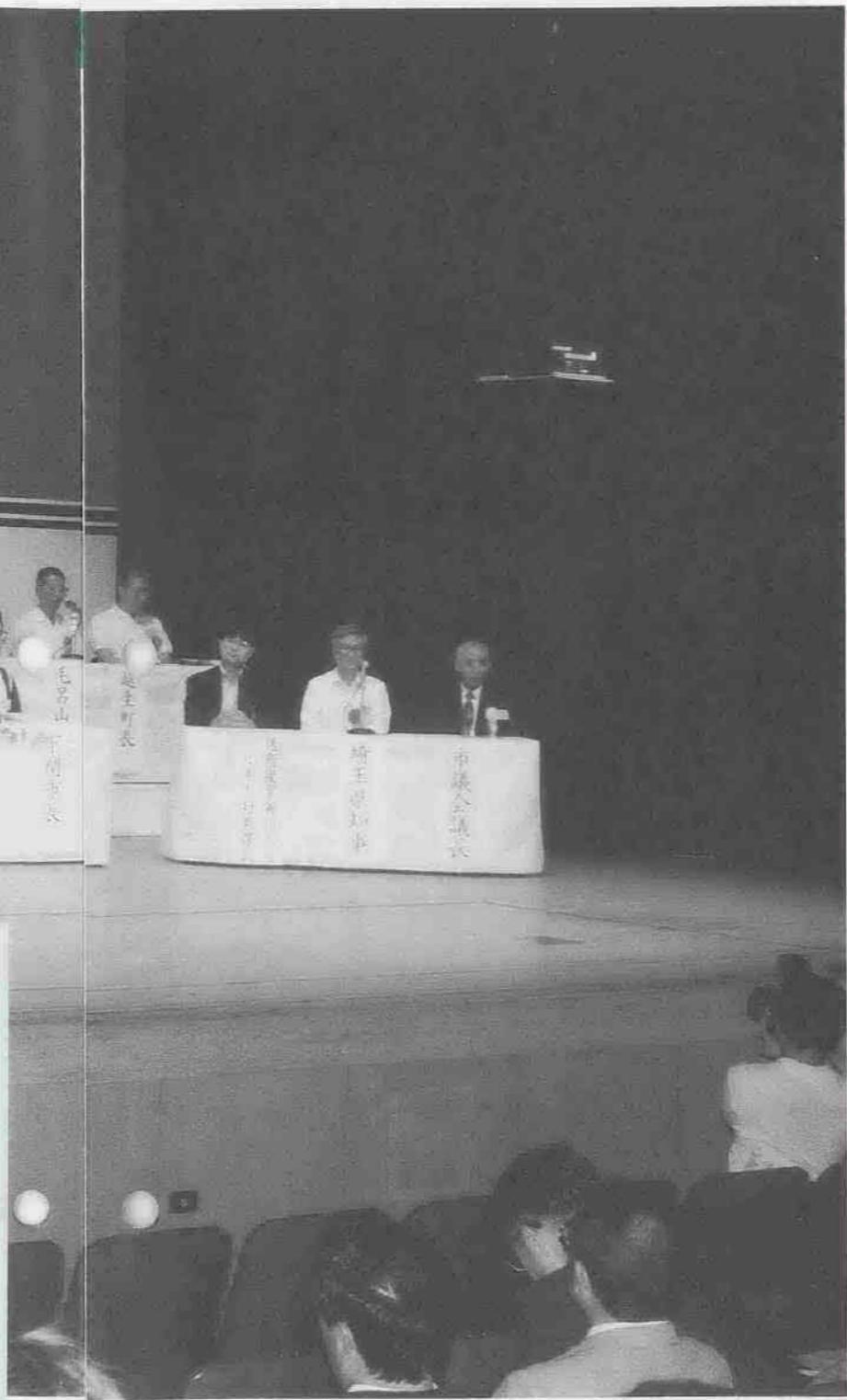
資源対策課節電推進係内線26922

地球を冷やそう

やまぶき会館に川越市のほか「十一の自治体等の代表が集まって行われた「節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミット」。エネルギーと環境について自治体から積極的に考えていくための情報交換が行われました。

*講演・事例・意見は、当日の発表を基に広報課でまとめました。

自治体発、環境経由、地球行き



クールエナジー宣言

「地球は青かつた」とかつて宇宙飛行士を感じさせた、美しい星は今、赤く熱を発し悲鳴をあげています。人類は、火を使うことによって、文明を進歩・発展させてきました。

十八世紀に始まる産業革命以降、化石エネルギーの利用は格段に広がり、その使用量は増加する一方です。そして、近年、便利さ、快適さを追求するライフスタイルによつてエネルギーの需要が飛躍的に増大した結果、地球温暖化の原因となる温室効果ガスが大量に排出され、私たちの子どもや孫たちが大人になるころには、地球全体の平均気温上昇によつて起こりうる環境への悪影響が危惧されています。

今なら、まだ間に合います。今から地球を冷やすないと取り返しのつかないことになつてしまします。私たちは、この環境変化を防ぐため、「自分にできること」をただちに実行しなければなりません。一九九七年十二月の「地球温暖化防止京都会議」において、各國の温室効果ガスの排出削減目標が採択されました。各國の「何とかしなければ」の思いが後押しとなつて、地球の温暖化防止に向け、大きな一步を踏み出しました。今、必要なのは「百の議論より、一つの行動を起こすこと」であり、それぞれができることを目標に向かって取り組むことです。

全国の自治体では、太陽光発電、風力発電、ゴミ発電などの新エネルギーの導入、太陽光発電設備への補助・融資制度を実施するほか、省エネルギーとしての節電運動などの新たな取り組みが始まっています。未来の地域社会に責任を負う私たち自治体は、クリーンで安全な新エネルギーと「節電は発電」ということばに表される省エネルギーの考え方を総称し、ホットな地球を冷やすという意味から「クールエナジー」と名付けました。かけがえのない地球を守り、自然に貢献をかけない地域社会を築くため、クールエナジー施策を先導的・積極的に導入し、推進していくことをここに宣言します。



地球を冷やすために自治体のできることが話し合われたサミット会場

平成十年七月三十日

節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミット参加首長

節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミットは、やまぶき会館ほかを会場にして七月三十日に行われました。

サミットは「残したい日本の音風景百選」に選ばれた「川越の時の鐘」の音で始まり、通商産業省資源エネルギー庁新エネルギー対策課・奥村和夫課長、埼玉県・土屋義彦知事(代理)の環境生活部・植木義展次長、川越市議会・石川良三郎議長からいさつをいただき、講演、発表、意見交換が行されました。

基調講演は、東京農工大学・柏木孝夫教授の「省エネ・新エネによる自治体エネルギー戦略」(要旨6ページ掲載)では、先進自治体(要旨6ページ掲載)が行われ、環境に対するエネルギーについての考えを盛り込んだ参加自治体首長の連名による左記の「クールエナジー宣言」を採択しました。



いうことになり、風車の導入になりました。

各地の風車を見て、私たちが得た結論は、回らない風車はダメということです。何十基と見ていく中には、回っていない風車もありましたから、一年間かけて風強精査をしました。地上三十メートルを吹く風は、一秒間に六メートル強というものでした。現在、ドイツ製（二百四十五キロワット）風車を二基建てて稼働しています。

風車は標高千メートルに建つていて、椿ケ原ハイランドパークというキャンプ施設すべての電力を送り、余った電力は余剰電力として九州電力に買つてもうとうと考えます。将来は六基まで増やしたいと思います。六基になると、村全戸の電力をカバーでき、余剰電力として売れば収入にもなります。これをブルして村民に還元し、村おこしにつながれば交流人口も増え、ことしはかなりの人たちが訪れるだらうと思ひます。

大分県前津江村・原田実村長

マテリアルリサイクルと
サー・マルリサイクルによって
二十一世紀に向けた
持続可能なリサイクル型社会

埼玉県東部清掃組合は越谷市、草加市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町の六自治体で構成する管内人口約八十二万人のごみと屎処理を担当する一部事務組合です。

埼玉県東部清掃組合は、資源化・再利用できないごみは焼却処理し、焼却過程で発生する熱を有効利用し、ごみ発電あるいは未利用エネルギーとして活用することがごみ処理施設の役割です。今後も、二十一世紀に向け原材料として使用するマテリアルリサイクル、エネルギーとして利用するマテリアルリサイクルを達成し、持続可能リサイクル型社会の実現を考えています。

埼玉県東部清掃組合・板川文夫管理者

ネーミングは戦略

職員の意識改革は市民の意識改革へ
市役所を動かすには

市民のアクションから

埼玉県東部清掃組合は越谷市、草加市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町の六自治体で構成する管内人口約八十二万人のごみと屎処理を担当する一部事務組合です。埼玉県東部清掃組合は、資源化・再利用できないごみは焼却処理し、焼却過程で発生する熱を有効利用し、ごみ発電あるいは未利用エネルギーとして活用することがごみ処理施設の役割です。今後も、二十一世紀に向け原材料として使用するマテリアルリサイクル、エネルギーとして利用するマテリアルリサイクルを達成し、持続可能リサイクル型社会の実現を考えています。

日本で一番初めに実用化された風力発電装置は下関市の蓋井島に灯台用の発電装置として設置されたとありますので、風力発電では先駆者であると認識しています。現在、日本海側からの強風を活用した風力発電の導入を関係各位に相談をしているところです。

きょうはたくさん市民の皆さんに役所を動かすアドバイスを申し上げます。川越市の一パーセント節電運動を下関市でやつたらどうかと言われたとき、真っ先に感じたのは、「何で川越市をまねしなければいけないんだ」という職員のリアクションです。他市町村の例を用いずに「こういう形はどうだろうか」とうまく持っていくと「それはいい」と取り上げてくれると思います。

山口県下関市・江島潔市長

市役所を動かすには
細かい施策の展開
リサイクル都市宣言
県内初のエコスクール

地球汚染と地球温暖化は、地球上に住む私たち全員の責任として行政を進めています。

川越市の一パーセント節電運動は、全国に鳴り響いていて、下関市でも多くの市民から「川越市のような運動をやつたらどうか」と言われました。私がやつたことは、府内職員の意識改革を含めた「ケチケチ運動」の推進です。職員の意識改革を行うことがイコール市民の意識改革につながるという信念を持つて取り組んでいます。

昨年九月には、新エネルギー財団と共に「クリーン下関新エネルギーフェア」を開催。子どもから大人まで楽しめる催し物で、市民と新エネルギーを取り組んでいるところです。

今年度は、ハイブリッドカーを導入しました。三十リットルで約千キロメートル走ることはある健康プログラザにも給湯しています。

平成八年十一月、全国で三番目のリサイクル都市宣言を行い、二〇一〇年にはリサイクル率三〇パーセント達成に向けて行政、市民、企業が一体となつた取り組みをしています。これから建設するすべての公共施設について、環境面に配慮をする方針です。平成十二年四月開校予定の入間川小学校では、自然をフルに活用し、埼玉県で初めて国のエコスクール指定を受けています。

週二日をノーカー（ノーパーク）とするほか、水曜日をノーカー（ノーパーク）とし、公用車と職員の自動車通勤を極力抑え、アイドリングストップを励行。また、電気自動車や天然ガス自動車に加え、ハイブリッドカーの導入を図っています。

平成八年十一月、全国で三番目のリサイクル都市宣言を行い、二〇一〇年にはリサイクル率三〇パーセント達成に向けて行政、市民、企業が一体となつた取り組みをしています。これから建設するすべての公共施設について、環境面に配慮をする方針です。平成十二年四月開校予定の入間川小学校では、自然をフルに活用し、埼玉県で初めて国のエコスクール指定を受けています。

狭山市・町田潤一市長

無理なく抵抗なく
できることから節電
一パーセントから始まる

ノーカー（ノーパーク）の継続と徹底
プラスチック系ごみの処理
静かなハイブリッドカーへの提案

上尾市では毎週水曜日をノーカー（ノーパーク）とし、市職員の通勤用の自動車と公用車。初回の自肃率は約六〇パーセント。最近では三五パーセント前後の自肃率になっています。無理した取り組みでは長続きしないこともあります。水曜日のマイカー（ノーカー）ではありますけれども、継続した取り組みにしたいと思っています。

市長も約五キロメートルを自転車で通っています。市長の姿勢が、運動を長続きさせる大きな力になると思います。水曜日のマイカー（ノーカー）ではありますけれども、継続した取り組みにしたいと思っています。

市長も約五キロメートルを自転車で通っています。市長の姿勢が、運動を長続きさせる大きな力になると思います。水曜日のマイカー（ノーカー）ではありますけれども、継続した取り組みにしたいと思っています。

ごみ処理施設を建て替え、従来分別収集し

ていたものをプラスチック系ごみもいっしょに収集することにより、熱効率を高め、発電を開始しました。三ヶ月の実績は月平均四百四十万円ほど電力を得ることができ、隣接する健康プログラザにも給湯しています。

今年度は、ハイブリッドカーを導入しました。三十リットルで約千キロメートル走ることはある健康プログラザにも給湯しています。

平成八年十一月、全国で三番目のリサイクル都市宣言を行い、二〇一〇年にはリサイクル率三〇パーセント達成に向けて行政、市民、企業が一体となつた取り組みをしています。これから建設するすべての公共施設について、環境面に配慮をする方針です。平成十二年四月開校予定の入間川小学校では、自然をフルに活用し、埼玉県で初めて国のエコスクール指定を受けています。

上尾市・長野征治助役

無理なく抵抗なく
できることから節電
一パーセントから始まる

無理なく抵抗なくということから始めたのが、一パーセント節電です。最初から一〇パーセントでは難しいですが、一パーセントなら協力体制がとれるわけです。実際には、初年度の電力消費量削減が五・四一パーセント。二年目は六・〇三パーセント削減できました。電力料金は変わるので平均ではないのですが、初年度の節約料金は約五千三百万円でした。市では新しい施設ができ、電力需要量が増えますから、現状維持ならないと思いましたが、五・六パーセント減になりました。それでも真っ暗な中で仕事をしているのではないかと、使わないとき、小まめに消すと大して不便を感じないで電気使用量を減らせると思います。スイッチが分かれていると照明を細かく消せ、効率的です。家庭でも部分的に消灯すれば電力料金は安くなるはずです。節電は電力消費量の多いときほど下げられるこ

ともありました。日本全国、世界中でやつたら相当な削減ができる、発電所を造らないで済みます。自治会や商業組合からも川越市の市職員八十四人で組織する狭山市役所環境リサイクル推進委員会を設置し、節電の励行に努めています。その結果、市役所内の節電は平成七年度比一二・三パーセントの削減、金額では四百三十八万円の減額になりました。この成果を基に、すべての公共施設に運動を広げ、かなりの成果を上げています。具体的には、消灯をはじめ、OA機器類の電源オフ、冷暖房器具の設定温度厳守、市役所内の節電を九百キロワットから八百キロワットへの変更など細かい施策を展開してきました。

とも発見しました。日本全国、世界中でやつたら相当な削減ができる、発電所を造らないで済みます。自治会や商業組合からも川越市の市職員八十四人で組織する狭山市役所環境リサイクル推進委員会を設置し、節電の励行に努めています。その結果、市役所内の節電は平成七年度比一二・三パーセントの削減、金額では四百三十八万円の減額になりました。この成果を基に、すべての公共施設に運動を広げ、かなりの成果を上げています。具体的には、消灯をはじめ、OA機器類の電源オフ、冷暖房器具の設定温度厳守、市役所内の節電を九百キロワットから八百キロワットへの変更など細かい施策を展開してきました。

行政官庁というのは、初めてのものは抵抗があり難いのですが、どこかがやつていれば安心します。前例があればいいのです。抵抗のないように、こういう会をプロック別に作ってネットワークし、互いに情報交換していく機運ができたらいいと思いますが、いかがでしょうか。

川越市・舟橋功一市長



緑豊かな川越をめざして

～川越市緑の基本計画を策定～

郊外に広がる緑豊かな田園地帯と雑木林、伊佐沼や新河岸川、入間川に代表される水辺空間は、蔵造りの町並みとともに、川越を特徴づける景観のひとつとなっています。しかし、都市化の進展や生活様式の変化とともに、市内の緑にかかわる状況も多様化しつつあります。

これまで、市では保存樹木・樹林の指定をはじめ、ふるさとの緑の景観地等の指定や市民の森の設置など、緑の保全や緑化を進めてきましたが、より総合的かつ計画的に緑化を推進するために「川越市緑の基本計画」を策定しました。今後は、この基本計画の実現に向け、緑の保全、緑化の推進を図っていきます。

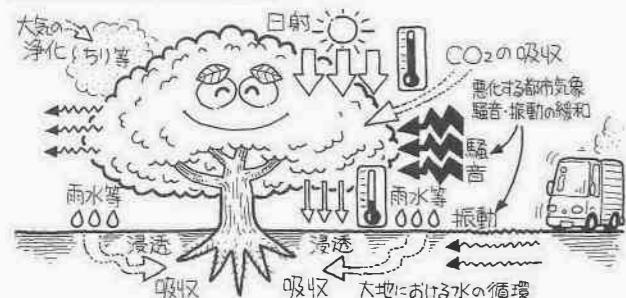
■かけがえのない緑

緑は、私たちの生活に安らぎや潤いを与えてくれるほか、心を安定させる作用があります。また、公害や災害から私たちを守ってくれたり、レクリエーションの場となったりするなど、さまざまな機能を持っています。

しかし、都市化が進む現代は、地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少など、環境破壊が広がり、地球上の緑は減ってきてています。このような環境破壊の大部分は、私たちの生活する都市が原因となり引き起こされているものです。

緑を守り、育て、多くの生き物たちに優しい都市をつくることは、私たちの生活を豊かにするばかりでなく、地球の環境保全にもつながります。快適で安全な生活を送るためにも、緑の保全と都市の緑化を進めていく必要があります。

■都市における緑の役割



■基本姿勢と目標

川越市緑の基本計画では、樹林地や農地、河川・沼等の水辺、公園、広場、グラウンドのほか、工場や住宅の庭までを「緑」として扱います。現在、川越市では、緑が市の面積の約6割を占めています。

計画の基本姿勢

市民の皆さんと協働のもと、伝統的文化を生かした「緑の保全、緑地の整備、緑化の推進」を積極的に進めています。緑と歴史的文化遺産との関係をより発展させ、川越の新たな局面を切り開くために、次のような基本姿勢を設定しました。

みんなではぐくむ

水と緑と歴史のまち・川越

計画の目標

平成17年を短期的目標とし、市制施行100周年となる平成34年を長期的目標として、川越市緑の基本計画の実現を目指します。

基準年次	短期的目標年次	長期的目標年次
平成7年(1995年)	平成17年(2005年)	平成34年(2022年)

■基本方針と施策

計画の基本姿勢を受けて基本方針を次のように設定し、計画の目標を具体化するための施策を推進します。

(1)川越の歴史的環境を形成する水と緑を守る

川越の独自性を生かしつつ都市の骨格を形成し、自然環境との調和のとれた空間を作り出すため、歴史的環境と一体となった緑、樹林地、農地、河川等の豊かな水と緑の空間を保全します。

◆施策

- ・歴史的文化遺産と一体となった緑の保全
- ・新河岸川の河岸跡と河岸林の保全
- ・歴史的な町並みの保全
- ・巨木・銘木・伝承木等の保存
- ・社寺林・屋敷林の保全
- ・樹林地の一体的な保全
- ・湧水の保全・復活
- ・市街地を取り巻く田園の保全
- ・水辺環境の保全
- ・樹林地内の動植物の保全・保護
- ・良好な河川環境の保全・復元
- ・身近な農地(生産緑地)の保全・活用
- ・ピオトープネットワークの形成



(3)水と緑のまちを育てる

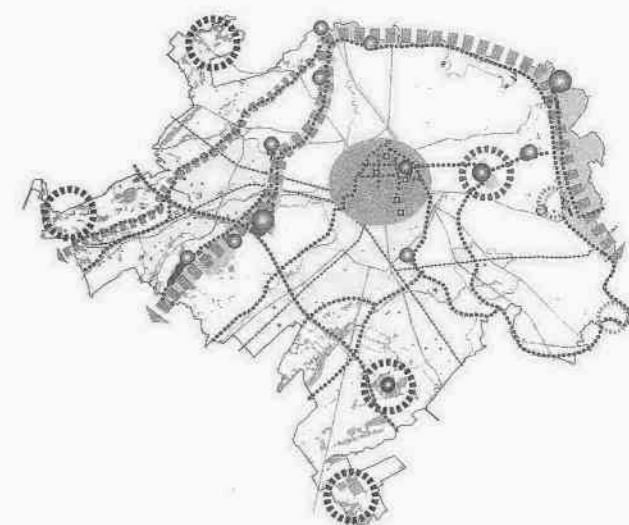
歴史に育まれてきた川越のまちをさらに魅力的で快適なものとするため、市民参加による緑の保全・整備・緑化等に関するしくみづくりや市民間の交流活動、市民に対する普及・啓発活動を推進し、歴史を生かした水と緑あふれる町並みの形成を図ります。

◆施策

- ・緑のイベントの開催
- ・顕彰制度の制定
- ・緑の講座の開設
- ・冒険遊び場づくり
- ・緑の条例の制定
- ・ガイドブックの作成
- ・緑の愛護会の育成
- ・緑化センターの設置
- ・グラウンドワークの推進
- ・既存のしくみの充実・拡充
- ・緑化を進める制度の推進
- ・緑のリサイクルシステムの構築
- ・農業体験事業の推進
- ・緑化を進める制度の推進
- ・緑に関する調査研究の推進・促進
- ・緑のアドバイザーの設置(樹医制度)
- ・ワークショップ形式等による公園整備と管理運営の検討

*「川越市緑の基本計画」は公園緑地課(市役所本庁舎5階)で閲覧できます。また、「川越市緑の基本計画(概要版)」は、同課ほか出張所、公民館で希望者に配布しています。

■緑の将来像図



(2)歴史と文化が香る緑豊かなまちをつくる

本市の特性である歴史的・文化的な環境を積極的に生かしていくため、自然や歴史を取り込んだ公園緑地の整備を推進するとともに、歴史的環境を生かした道路・河川の緑化を進めることで、水と緑のネットワークの形成を図り、既成市街地はもとより新興住宅地においても川越らしい歴史性を基調としたまちづくりに努めます。

◆施策

- ・初雁公園の整備
- ・森林公園の整備
- ・市民の森等の指定
- ・川越運動公園の整備
- ・身近な公園の整備
- ・市民農園の整備・充実
- ・河川親水拠点の整備
- ・緑あふれる道づくり
- ・防災に資する公園の整備
- ・公共施設の緑の充実
- ・公園のバリアフリー化の推進
- ・地域生活拠点・新市街地における計画的な緑化
- ・住宅地の緑化
- ・道路緑化への市民参加(さざなぎ通り方式)の推進
- ・中心市街地の質の高い緑化
- ・工場・事業所等の緑の充実
- ・小江戸回廊づくりを行なう区域
- ・回廊網の形成
- ・緑道ネットワーク化の推進

- ふれあいの水辺拠点の整備・ふるさとの雑木林の保全・整備を重点的に行なう地区
- 伊佐沼公園の拡張・森林公園の整備・初雁公園の整備
- 良好な河川環境の保全・回復
- △ 樹林地の保全
- 歴史的遺産と一体となった緑の保全
- △ 小江戸回廊づくりを行なう区域
- 回廊網の形成
- 緑道ネットワーク化の推進

問い合わせ…公園緑地課公園計画係☎内線3321

歴史を今に伝えて

川越の四季屏風



この屏風は、縦百センチ、横三百六十四センチある八曲（八枚折り）の屏風です。安永六年（一七七七）に描かされました。向かって右から二扇ずつ、春、夏、秋、冬と季節が流れるように描いています。「四季屏風」と呼ばれるのはそのためです。雲形に間をとつて絵を描き、そのまわりを切箔（せきはく）という、金の箔を細かく切つて散らす技法を用いて装飾しています。

四季のうち「春」に描かれているのは、花見のうたげで楽しむ人々や、やぶさめ行事です。「夏」には田植えをする人々

や、元気よく遊ぶ子どもが登場します。

続いて、寺子屋で学ぶ子どもや働く職人の様子、祭りの行事風景が現れる「秋」。「冬」に描かれるのは謡い初め、書き初め、子どものこま回しといったお正月の風物です。

作者は梅曉堂（ばくこうどう）（一七〇九～一七五九）。本名を井上権兵衛といい、高沢町（現在の元町二丁目）に住んでいました。

代々、材木や米穀などを商っていた井上家の六代目で、町名主を務めた有力町人でした。

作者自身が町人である、この四季屏風。

当時の川越町人の生活の一端をうかがうことができる歴史資料として貴重な存在です。現在、市の指定文化財となっています。

*「川越市の文化財（川越市教育委員会）」、「川越の指定文化財（川越市立博物館）」を参考しました。

29



編集日記

8月4日、新潟県地方に記録的大雨をもたらした活発化した梅雨前線。この影響による渦流で冠水したり堤防が決壊したりして家屋や田畠はたいへんな被害を受けたそうです▶梅雨明けした直後、川越市内やその周辺地域で突然の雷雨。この大雨で、道路の冠水や鉄道の運転見合せなど交通機関に大きな影響がありました▶これから9月・10月ごろにかけて台風が関東地方に接近することが多くなる季節。突然の災害に備えて、日ごろから、家中や周辺をチェックし、家族で緊急避難場所などについても話し合っておきたいものです。今月30日には、川越商業高校で第19回川越市総合防災訓練が行われる予定です。

TV わが街川越 番組ガイド

テレビ埼玉（38ch）／はじまりは、1パーセントから

9月5日(土) 午前10時20分～10時30分
9月6日(日) 午後5時50分～6時00分

川越ケーブルテレビ（15ch）

9月6日㈰まで・川越の伝説／9月7日㈪から・はじまりは、1パーセントから
月～木曜日／午前9時45分～・午後0時45分～・午後6時45分～・午後9時30分～
金曜日／午前9時45分～・午後0時45分～・午後6時45分～・午後9時45分～
土・日曜日／午前9時45分～・午後4時00分～・午後6時45分～・午後9時45分～

はじまりは、1パーセントから

「節電（省エネ）・新エネルギー自治体サミット」で紹介された市区町村の省エネルギー・新エネルギーへの取り組み。地球環境には、私たちの生活が果たす役割も重要です。できることからはじめてみませんか。

川越の伝説

語り継がれてきた伝説を池原昭治さんの童画と現在の風景で伝えるシリーズ。今回は、名細地区に伝わる「小畔川の小次郎」と川越城七不思議の一つ「初雁の杉」をお送りします。
平成2年度制作・再放送



■変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

■発行／平成10年8月25日（毎月10日・25日発行）

■発行人／川越市長 舟橋功一

■編集／川越市広報課 〒350-0601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 ☎0492-24-8811内線2132

■印刷／株式会社井印刷所